

仲間と一緒に学ぶ！アウトドア・アドベンチャー体験！

令和6年度 緑の少年団交流集会『アウトドア・アドベンチャー体験』活動レポート

10月5日（土）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『緑の少年団交流集会アウトドア・アドベンチャー体験』が浜松市の静岡県森林・林業研究センターで開催されました。県内の3団体の少年団、計12名の子供たちが参加。災害時に役立つロープワークや不思議な物体『テンセグリティ』を楽しく制作しました。

まずはロープワークを学ぼう！

当日は、雨予報だったことから規模を縮小しての開催となりました。まずは、運営の公益社団法人林業会議所の事務局長からスケジュールの説明とスタッフ紹介があり、その後4班に分かれて災害時に役立つロープワークを学びます。それぞれにロープが配られるとテーブルの上でテキストを見ながらロープを結び始めました。基本の8の字結びに始まりつなぎ結び、よらい結びなど難易度が上がるにつれて苦戦する子供たち。「もやい結びがむずくてわかんない」「ここどうするの？」各班についてスタッフに質問しながら一つの結び方ができると「できた！」と嬉しそうにしていました。兄弟で参加している子供たちは、結ぶことができない弟に優しく教えるお兄ちゃんの姿が見られ微笑ましい光景でした。テーブル上での結び方を一通り終わると今度は木の棒を使って練習です。子供たちはテーブルの上では結ぶことができていたはずなのに、いざ棒に結びとなると勝手が違って大苦戦。「えーわかんない！」「こっちに通すんじゃないの？」と悪戦苦闘。スタッフの助けを借りながら結び終わると達成感に満ち溢れた顔で喜んでいました。

今度は外に出て実践！

棒での練習を終えた子供たちは今度は外にでて実践です。班ごとに分かれて4つのプログラムに挑戦しました。川に流された時に助かるようにするプログラムでは、もやい結びで自分の身体を縛って流されないようにする練習です。「あれ、どうやるんだっけ」「むずい」「さっきは結べたのにー」とテーブルや木の棒での練習との違いに戸惑っているようでした。ロープの太さや長さが違うと結ぶのも大変です。「ちゃんと結べないと川に流されちゃうぞー」という声に「えーやだ！縛れるよ」と言って一生懸命取り組んでいました。川遊びなどで流された時に咄嗟にロープを縛るのはかなり難しいこととは思いますが、このように学ぶことは命を救うことにつながる重要なことだと感じました。ブルーシートをタープに見立てて張るプログラムはシートを柱に縛りつける実践です。こちらはみんなで協力しながらの作業ですが、どのチームも上手にできていました。テントを張るプログラムはタイムアタックです。まずは、既に建てられているテントをばらすところから始まります。この時大切なのが、どのように組み立てられていたかを覚えておきながらばらすことです。覚えておかないと組み立てる時に苦労するからです。「ここを外せばいいんだ。」「簡単！」と一つ一つのパーツを外していきます。あっという間にテントのばらしが終わるとここからがスタートです。「じゃあこれから組み立てるよ。何分で組み立てられるかな？」「よーいスタート！！」



スタッフから当日のスケジュール説明



テキストを見ながら真剣に結びます



今度は棒で結んでみよう！



川で溺れた時に役立つ実践！



ブルーシートをタープ代わりに

子供たちは一斉にアルミのパイプを持って「これとこれをここにに入れて」「えーこっちじゃなかったっけ」とばらした時を思い出しながら組み立てていきます。みるみるうちに骨組みが完成し、後はシートを張れば終了です。子供たちはタイムが気になるらしく、「早く早く！」とあせった様子。「できた！」の声にスタッフから「5分21秒」とタイムの報告がありました。自然に拍手が湧きあがり出来上がったテントに入った子供たちはとても嬉しそうでした。4つあるプログラムの中で最も盛り上がったのが、滑車のパワーを体感する綱引きです。柱に付けられた滑車とロープを使っての綱引きです。2本のロープの一方に3人、もう一方に一人と3対1で勝負です。通常だったら圧倒的に1人が不利な状態です。「じゃ、綱引きだよ。よーいスタート！」子供たちが一斉に力を入れて綱を引きます。最初は均衡を保っていましたが、徐々に1人で綱を引いている子の方がグイグイと綱を引いていきます。3人は引っ張られまいと踏ん張りますが滑車の力はものすごく結局引っ張られてしまいました。「やった！一人で勝てた！」「滑車すげー」と楽しそうに滑車のパワーを体感していました。

それぞれのプログラムを終えた子供たちは「おもしろかった！」「ロープを縛るのがむずかった」など様々な事を感じたようでした。

不思議な物体テンセグリティ作り！

昼食タイムを終え、グリーンバンクソングの「テワタスミドリ」をみんなで歌った後、午後のプログラム『テンセグリティ』作りです。テンセグリティは2つのパーツをテグスで組み合わせるもので、それが浮いているように見える不思議な物体です。工作室に移動し、スタッフから図面と材料が配布され、作り方の説明がありました。今回は図面通りに棒に自分で印をつけ、ノコギリで切り出すところから始めます。中には今日始めてノコギリを使うという子もいて、慎重に切っていました。「切れたらヤスリで切り口をきれいにしよう」という説明があると、「まっすぐ切れなかったからこれできれいにしよう」と言いながらヤスリで削ります。パーツができあがるよいよ組み立てです。それぞれのパーツを瞬間接着剤を使ってくっつけていく作業です。この作業も一苦労でなかなか上手につけるのが難しくスタッフの力を借りながら2つの物体ができました。ここからが最難関で、この2つのパーツを事前に開けてもらった穴にテグスを通して合体させます。バランスをとるのが難しく、思い通りに安定しません。つまようじを使ったりしながらバランスのとれる位置を探ります。「できた！」見ると浮いているように見えるテンセグリティができあがっていました。「すごいむずいけど楽しかった」と話す女の子の笑顔がとても素敵でした。時間内に作り終えることができなかった子もいましたが、「うちでゆっくりやる」と言いながら大切に抱えて持ち帰る姿が印象的でした。

天候の関係で縮小しての開催となりましたが、子供たちにとってはかけがえのない貴重な体験となったと思います。



真剣にテントを組み立てます



テント最高！



滑車のパワーを体感



図面通りに棒に印をつけます



のこぎりでパーツの切りだし



パーツを合体！



つまようじでバランスをとります



完成品に大満足！